

開館30周年記念事業

みんなく ウィークエンド・サロン 研究者と話そう

開館30周年の記念として、来館者のみなさんとより身近に語り合いながら、民博の研究を知っていただくイベントを1年間おこなっていきます。

研究部の全員が週末ごとに1人ずつ、展示場のどこかに登場します。それぞれの持ちネタ(研究成果)は、千差万別。

休日の午後、博物館へお話の花を咲かせにいらっしやいませんか。



説法台(東南アジア展示)



岩壁画(オセアニア展示)

■時間：14:30～15:00 ■場所：常設展示場内 各所

■参加費：無料(ただし、常設展観覧料が必要)

* 毎週土曜日は、小学生・中学生・高校生は無料で観覧できます。
ただし、自然文化園を通行して来館される場合は、自然文化園の入園料が必要です。

実施日・話者・話題

4月28日(土)

田村 克己 (副館長・民族社会研究部教授)
「東南アジアの30年」

4月29日(日)

松山 利夫 (民族社会研究部教授)
「岩壁画を語る」

4月30日(月)

岸上 伸啓 (先端人類科学研究部教授)
「北極の春」

5月3日(木)

鈴木 七美 (先端人類科学研究部教授)
「アメリカ南部移民のハーブガーデンが語るもの」

5月4日(金)

野林 厚志 (文化資源研究センター准教授)
「家畜にもみどりを」

5月6日(日)

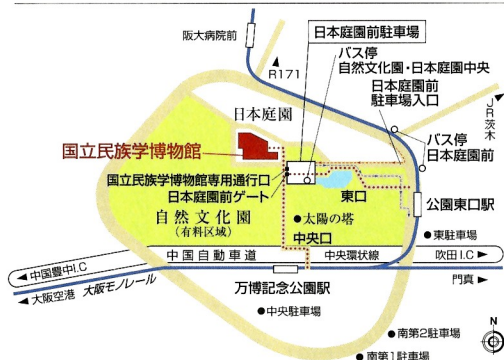
韓 福眞 (外国人客員教授)
「韓国の時節食一端午節によせて」

※以後の予定は、ホームページ等でお知らせします。

編集後記

この編集後記を書いている4月のはじめ、民博ではあちらこちらで工事の音が鳴り止まない。来館者と関係のある部分では、すでにお気づきの方もおいでだと思うが、2階展示場入り口へのイントロダクションコーナーの敷設と民博外側正面のエントランス部分の改修がある。後者は、エントランス付近の段差をなくすバリアフリー化と二つの出入り口を結んでいた立派なひさしの撤去工事をおこなっている。このひさしは数年前、雨が降った際の来館者の便を考へ少額でない金をつぎ込み作ったものだが、正面の美観をそこね、あまり役に立っていないということで撤去されることになった。今秋、30周年をむかえる民博だが、今も試行錯誤を繰り返しながら、来館者の利便や時代の要請にこたえうる博物館をめざしている。

じつは、今お手元にある『月刊みんなく』も同様に体裁や構成の改修を繰り返してきている。5月号では、今年度からの新企画である、「地球ミュージアム紀行」[モノ・グラフ]が出揃うことになる。前者は執筆者が民博のスタッフ中心となり、後者は民博のモノを扱う予定である。民博を今まで以上に身近に感じていただければ幸いです。(庄司博史)



交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。



次号予告/6月号特集
ペット

2007年5月号

第31巻第5号通巻第356号
2007年5月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敏夫

編集委員 池谷和信(編集長) 榎永真佐夫
久保正敏 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

- 本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
- 本誌掲載記事の無断転載を禁じます